

同窓会

の

チカラ

同窓会のための情報誌

2019

紹介●同窓会活動紹介 1

- ・金農健児を送り出す：

秋田県立金足農業高等学校同窓会

- ・母校に帰る日：

神奈川県立小田原高等学校同窓会 樫友会

リレー連載 ●私と同窓会

- ・石坂征洋（信州大学繊維学部同窓会

一般社団法人 千曲会・専務理事）

紹介●同窓会活動紹介 2

- ・人を作り人を繋ぐ：

小山学園同窓会

- ・志高き学びの為に：

鳥取県立米子東高等学校 勝田ヶ丘同窓会

特定非営利活動法人 勝田ヶ丘志学館

- ・飛翔せよ翠嵐：

神奈川県立横浜翠嵐高等学校同窓会 翠嵐会

- ・三校合同還暦同窓会：

岡山県立倉敷南高等学校同窓会

わが学び舎

- ・高知県立高知追手前高等学校校友会



Our Proud

高知県立高知追手前高等学校（旧・高知県立高知城東中学校）時計台
1931年（昭和6年）10月竣工 鉄筋コンクリート造3階建て

Vol. 11

金農健児を送り出す

秋田県立金足農業高等学校同窓会

甲子園準優勝を支えた同窓会の 狂騒の日々を振り返る



◀金足農業高等学校

●秋田県立金足農業高等学校は、平成三十年八月に開催された全国高等学校野球選手権記念大会で準優勝に輝いた。この記念すべき第百回大会において、金足農業高校の活躍には瞠目すべきものがあり、全国の野球ファンや高等学校野球関係者に深い印象を刻みつけたと言っているだろうか。社会現象とまで言われた雪国の公立高校の活躍の原動力と、その裏での学校、父兄、地元のサポート体制と、全国から寄せられた支援への対応など、同窓会を中心とした関係者の狂騒の日々を伺った。

金足農業高等学校野球部は、昭和五十九年の春に初出場して以来これまで春夏秋冬あわせて九回甲子園に出場しています。五十九年春には二回戦で敗退しましたが、同年の夏では、準決勝で桑田清原両君を擁するPL学園に惜しくも敗退、また平成七年の準々決勝で金沢の星稜高校に敗退して以降、甲子園では初戦敗退が続いていました。しかし平成三十年、記念すべき第百回大会において金足農業は劇的な接戦を演じ、惜しくも決勝で破れはしたものの、全国の高校野球ファンに野球の魅力を深く印象づけることが出来たことは、選手はもちろん学校や地域、関係者の大きな喜びであり、誇りとするものです。

甲子園行きは決まっただけ

甲子園の前の秋田大会では第一シードの金足農業が順当に勝ち上がっていきました。そして七月二十日、甲子園が見えてきた段階で、甲子園に向けた募金の準備に

入りました。残るはあと二戦、もし優勝したら、甲子園開幕までは十日あまりしかありません。こうした際の活動の中心となる同窓会では学校やPTA関係者とはかり、急遽募金の準備を開始しました。しかし学校は夏休みに入っただけで試合を持つのも容易ではありません。そうこうしているうちに秋田大会の優勝が決まってしまう。さあ大変です。これまでの「優勝したら」のモードから「いざ甲子園へ」の全力モードにギアを入れて、あらかじめ決めてあった活動を開始しました。

対外活動の最大の問題は資金集めです。しかしあいにく金足農業では平成三十年に創立九十周年を迎えたための募金活動をしたばかりでした。重ねての「お願い」は気が引けますが、それでもお願いをするしかありません。同窓会では、あらゆるつてをたどり、また広く地域に理解を呼びかけてまわりました。

出場校の選手と関係者の旅費などは高野連が負担してくれます。しかし選手だけが甲子園に行くわけではありません。当然のことながら、在学する生徒、またその父兄、さらにはOBなどの応援団がいます。もちろんプラスバンドも必要です。こういう人たちをどのようにして甲子園に送り届けるかが大問題。秋田のように甲子園まで距離のある学校では、その移動の手間を考え、貸切バスを用意するのが普通でしょう。引率者の目も届きまじし無用のトラブルなども未然に防げるからです。ただしそれなりの費用もかかります。加えて秋田には東北特有の別の事情もあります。夏の東北三大祭が、八月の初めに次々開催されるため、観光客の輸送用にバスが払底してし

まうのです。秋田竿燈まつりは八月三日から六日までで、八月二日の組み合わせ抽選会の結果によっては応援団の輸送計画を見直さなくてはなりません。これには大層気を採みました。

結果的に、金足農業の初戦は大会四日目の八月八日の第二試合となり、関係者一同まさに胸をなでおろしたものでした。とりあえずバスの手配はつきましたが、このバスの費用がまた大変です。学校から甲子園往復一台およそ百万円ほどかかります。それで募金活動は継続しつつ、とりあえず第一回戦の応援参加者を募りました。その結果、全校五百十八人中七割の三百五十四名と引率者三十名がバス十五台に分乗して甲子園へと向かいました。学校発午後七時、甲子園到着午前八時、応援後、ただちに金足へと返す。泊三日の弾丸ツアーです。この時には参加者から旅費として五千円をもらいました。足りない分は同窓会の留保分と、募金を充てるわけです。それにしてもバス代だけで千五百万円です。選手のユニフォームや各種の用具の新調、また応援団の食事その他を考えますと、ざっとその倍くらいにはなります。

甲子園が始まった

初戦の相手は強豪・鹿児島実業です。これに勝利してから次の二回戦までは五日間の空きがありました。さあ募金活動にも力が入り、各方面への働きかけをしたわけですが、なにしろ夏休みですから、なかなかうまく進みません。しかしこのころ、ようやく募金の趣意書を配布することができ、地元でも協力の動きが見えてきまし



●連絡先

秋田県立金足農業高等学校 同窓会事務局 (担当:小林 晃)
〒010-0126 秋田市金足追分字海老穴 102-40
TEL : 018-873-3311 / FAX : 018-873-3313
E-mail : kanano-dosokai@akita-pref.ed.jp



▲甲子園準優勝後に20年ぶりに新調なった遠征用バス。スクールカラーの紫に雑草軍団の文字が映える



左: 渡辺 勉 (わたなべ・つとむ) 氏
金足農業高等学校 校長
中: 中泉 松之助 (なかいずみ・まつのすけ) 氏
金足農業高等学校同窓会 会長
右: 佐々木 吉秋 (ささき・よしあき) 氏
金足農業高等学校甲子園出場支援協議会 会長

た。甲子園での初戦勝利はやはり地元が大きくアピールします。マスコミ報道を追い風に、お願いの言葉にも力が入ります。それでも集まった募金は到底足りません。そして八月十四日、金足農業は二回戦に臨みます。この時には、旅費二万円で応援参加者を募りました。一部の親からは一回戦の五千円からの値上げにお叱りもいただきましたが、背に腹はかえられませんが結果は参加者が二百名、引率者が十五名となり、バス七台で、前回同様〇泊三日の弾丸ツアーを決行しました。夏休み中にもかかわらずこれだけの人数が集まったのは、学校の連絡網を通じてメールを活用したからです。おかげさまで二回戦の大垣日大高校にも勝利できました。弾丸ツアーに参加してくれた方々も、車内ではさぞ盛り上がったことでしょう。

それから中二日で三回戦です。相手は強豪・横浜高校。正直、この試合に勝てる自信はないというのが、応援している同窓会長や大方の人の冷静な分析だったと思います。この三回戦では、応援参加者から一人三万円もらいました。ただし、これには決勝までの全ての費用を含むとし、弾丸ツアーではなく、宿舎も用意しました。もし決勝までいったら、滞在は五日間となりスタンドからの応援も四回になります。苦戦が予想される試合に際し、応援団のほうも、いわば背水の陣で入魂の応援に臨んだわけです。

その甲斐あってか、迎えた八月十七日の対横浜高戦では劇的な勝利を収めることができました。またその勢いをそのままに、翌日の対近江高戦でも勝利し、三十四年ぶりのベスト4進出を決めました。

ただその一方で、今の寄付金だけでは滞在費などの経費が賄えない可能性もありました。そこで野球部OB会はホームページでその窮状を訴え、さらなる寄付のお願いをしたところ、地元のマスコミのみならず全国的な話題となり、あの「金農ファイバー」が沸き起こりました。地元秋田だけでなく全国から寄付が殺到し、記帳された通帳が一日で五十冊も届くなど、有難いことにその勢いは凄いものでした。

準決勝の日大三高を破つての決勝進出は、秋田県勢としては大正四年(一九一五)第一回大会の秋田中学(現・県立秋田高校)以来百三年ぶりです。残念ながら大塚桐蔭高校に破れ、東北勢の初優勝は成りませんでした。地方の公立高校の活躍が広く共感を呼んだことは、今も様々な方面から聞かれています。

戦い済んで学び舎に戻る

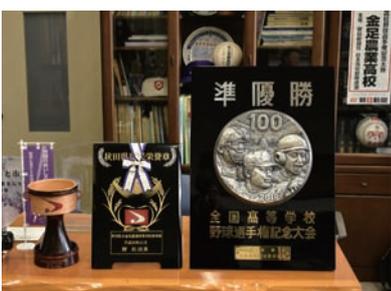
●甲子園の後は、支援や応援をしてきた組織・個人・企業の方々に準優勝の報告とお礼をして回ったり、各マスコミ関係への対応に当たったりなど多忙な日々が続いたという。

今回、同窓会と野球部OB会、PTAやその他関連する組織を「支援協議会」という名称のもとに一本化し、寄付活動を効率良く運営した中心人物である支援協議会長の佐々木氏は、「全国の、本当にたくさんの方々が寄付してくださったこと、さらには大勢の方が来校し応援してくださったことに感謝いたします」と語った。

渡辺校長は、「寄付してくれた方へ感謝

するのはもちろんのこと、多くの方々が応援に参加してくれた中で、一人の病人も怪我人も出さずに済んだことは奇跡的であったとも言えます」と述懐する。またこの奮闘が他の生徒たちの自信にも繋がったとして「それは、夏休みが終わり、登校してきた生徒たちの顔が明らかに変わっていたことでも分かりました。ひとりひとり『やればできる』と実感した夏だったのではないだろうか」と語る。

最後に中泉同窓会長は、今回の金農ファイバーを振り返り、次のように語った。「雪国の公立高校が甲子園に出て勝利をあげることが、そう簡単なことではありません。しかしこのハンデを乗り越えて活躍したことは、選手たちのみならず生徒たちの『未来への希望と自信』になつてくれたと思います。これから社会に出て同窓が集まった時、今回の奮闘を懐かしみ語り合つてほしいものです。母校創立九十周年の記念すべき年に甲子園準優勝を勝ち得たことは学校および同窓会にとってこの上ない喜びです。応援をして下さった同窓や全国の皆様に深く感謝いたします」



▲右・全国高等学校野球選手権記念大会・準優勝盾
中・秋田県民栄誉章・盾
左・秋田県民栄誉章記念・盃 (県議会)

母校に帰る日

神奈川県立小田原高等学校同窓会 けんゆう 樫友会

樫友祭（小田高ホームカミングデー）



◀久々の語らい。正面玄関前広場にて。

●神奈川県立小田原高等学校同窓会・樫友会では、毎年五月中頃に、同窓会総会と併せて樫友祭（小田高ホームカミングデー）を開催している。平成十八年に開始して以来、年々内容も充実し、参加者も増えて、小田原高等学校同窓会の主要な活動となっている。その成立の経緯と運営の実際を樫友会交流委員会委員長 蛭田克美氏に伺った。

「小田高ホームカミングデー」開催のそもそもは、平成十三年（二〇〇一）の創立百周年記念式典の挙行と、それに伴う多くの記念事業が実施された頃に遡ります。こうした大きな周年事業では、同窓会のネットワークの広さと精神的・経済的な力量が不可欠です。おかげさまでこの時の賑わいは大変なものでしたが、一方で記念の年以外の同窓会の活動状況はと言えば、必ずしも活発とは言えないのが実情です。恒常的な母校支援の気持ちも無いわけではないですが、日々の生活に忙殺されているのか、関心の度合いは希薄であるように見えます。それに連動するように同窓会の集まりや年会費の納入率も伸び悩んでいます。

これに加えて、県立高校改革推進計画により、平成十六年（二〇〇四）四月に小田原城内高校と統合し、単位制普通科高校へ移行することが決定しました。母校の大転換という状況の到来を前に、我々樫友会では「同窓会在り方検討特別委員会」を設置、変わりゆく社会の中での同窓会の役割とそれに即応し得る組織体制の構築をさまざまに検討し、平成十七年（二〇〇五）五月に「総会への会員参加率の向上や若年層

会員及び女性会員の参加を目標にして、ホームカミングデーの実施」が提言されました。これを受けて十一月に「ホームカミングデー実行特別委員会」を設置、一年後の開催に向けて走り出したわけです。

「ホームカミングデー」というのは、卒業生が年に一度母校に帰り、同窓生、先輩・後輩、家族とともに母校で一日を楽しむ同窓会のお祭りです。樫友会が主催するので「樫友祭」と称しています。ただ、名称やコンセプトは決まったけれど、具体的に何をどうやるのか、他に前例が乏しい中での手探りが始まります。ただ平成十九年（二〇〇七）には新校舎建設に伴い現校舎の取壊しが決まっていたので、懐かしい校舎を見る最後の機会、というフレーズを前面に出そうという考えがありました。

平成十八年（二〇〇六）十一月十二日、第一回・小田高ホームカミングデーを母校で開催しました。開催テーマは「小田高へ行こう！ 想い出の学び舎・八幡山に全員集合！」。内容は、母校を会場としたさまざまなアトラクションや模擬店の開催、現校舎を見る最後のキャンパスツアー、懇親会、これに目玉企画として、「俳優の合田雅吏氏のトークショー」「落語家・柳家三三師匠の落語会」「海外旅行券など豪華景品が当たる大抽選会」などを実施、集まった千名を超える卒業生や家族などには大いに楽しんでいただけたと自負しております。この後、翌平成十九年七月に第二回を開催し、三回以降は五月中頃に「同窓会総会」と同日に開催しています。

「小田高ホームカミングデー」の構成内容は毎年「開催テーマ」が設けられますの

で当然それに合った内容になるわけですが、「八幡山トーク」「八幡山寄席」「八幡山コンサート」などは、各種展示と並ぶ柱として続いています。「八幡山トーク」では、専門家による「地震から命を守る話」や「暮らしに役立つお天気の話」、また「新幹線発祥の地・小田原」や「戦時・占領下の小田原中学」などの郷土の歴史までさまざま、「八幡山寄席」では、第一回から八回まで落語家の柳家三三師匠が校内の視聴覚室で高座を勤めました。また「八幡山コンサート」では、クラシックの各ジャン

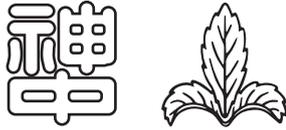
◀八幡山コンサート（平成30年）
演奏：キヨシ小林 with ウクレレ
オーケストラオブジャパン/
斎藤秀次（高20）



八幡山トーク（平成30年）▶
講師：朝倉哲郎（高20）
東京農工大学工学部
特任教授・名誉教授
テーマ：絹による人工血管、
再生医療材料の研究開発



▲八幡山寄席（平成25年）
柳家三三師匠（高45）



●連絡先 神奈川県立小田原高等学校同窓会 榎友会
〒 250-0045 小田原市城山 3-26-1
神奈川県立小田原高等学校内
Tel / Fax 0465-20-3281
E-mail : kenyukai@odako.org



▲経営者シンポジウム (平成 28 年)

蛭田 克美 (ひるた・かつみ) 氏 (高 15)
小田原高等学校同窓会榎友会交流委員会委員長

ルから、ピアノ演奏、ジャズ、声楽、各種楽器による演奏、さらに箏の演奏まで、多彩なメニューを披露してきました。もちろん母校の歴史に関する企画展示や「校史展示室公開」のように定番メニューになっているものも多くあります。

こういったラインナップになったのも一つには音楽系の人脈が豊富にあったこととあります。幸いなことに、これ以外のジャンルにも多くの卒業生が進出しており、そのネットワークを伝って大抵のことはできるポテンシャルがありますから、これからの展開が楽しみでもあります。

もともと来場者を増やすことは容易ではありません。来場者数も、初回こそ千名を超えましたが、二回から四回までは三百名です。これではいけないと、第四回からは当番制を導入しました。これによって、当番学年が積極的に参加するようになりました。加えて当初の目標であった「若年層・女性会員の参加」も増えるというおまけ付きで、高32回の女性会員グループのように自発的に手作りクッキーをティーパーティーで提供してくれるなどの新しい動きも出てきました。第五回は創立百十年記念というテーマの下、五百人を集め、それが七回まで続きました。それが十一回には八百名にまで一気に増えています。その理由は「今を『創る』。そして明日に向けて」と題された「経営者シンポジウム」だったと思います。

シンポジウムのパネリストは富士ゼロックス(株)代表取締役会長・山本忠人氏(高16)、(株)関電工代表取締役会長・山口学氏(高16)、ヤマトホールディングス

(株)取締役相談役・瀬戸薫氏(高18)、キリンホールディングス(株)代表取締役社長・磯崎功典氏(高24)。司会はフジテレビ報道局シニアコメンテーター・鈴木款氏(高32)でした。このシンポジウムは非常に大きな関心呼び、会場の視聴覚室(集成館ホール)は開始前から満席で、このため二つの会議室にライブ中継されたほです。内容は小田高時代の思い出を皮切りに、第一のテーマ「会社を変える力とは何か」について、企業人としての経験から各々の考えを話されました。次いで「苦境の中での決断」と題した第二のテーマについて、東日本大震災を中心に各々の立場での行動と決断についてお話があり、更に関電工の山口氏からは、原発事故の際のシリアスな状況の中で、その現実立ち向かった社員たちの奮闘ぶり、瞬間瞬間に下さねばならない決断についてのお話があり、困難極まりない作業に立ち向かった現場が眼前に展開されているような思いがしたものです。そして最後に「若者たちへのメッセージ」が述べられました。

「ホームカミングデー」の基本方針は、入場無料でどなたでも来場できる、というオープンなものです。主催は学校と同窓会の共催です。これは食品等を扱うための措置です。後援は小田原市、企画実行は小田高ホームカミングデー実行委員会、となっています。企画実行者の内訳は、まず同窓会本部役員全員と常設委員会、次にこれまでホームカミングデーを経験した方の中での有志、それに担当同期会の責任者、のみなさんです。開催費用は全て同窓会の予算でまかさないです。毎回およそ七十万円かか

ります。回を重ねるうちには財政危機もありましたが、企業等の協賛広告を導入し、してクリアしています。

「ホームカミングデー」はたった一日だけのイベントです、今はまだ「こった煮」のようなものかもしれませんが、そこから伸びていくものはきつとあるでしょう。現状、「ホームカミングデー」は母校と同窓会双方の発展の素であり、我らの意識のシン・ヨー・インドウとして位置付けられるものです。そして現在、その発展形としての、各界の権威やエキスパートによる「榎友セミナー」や「榎友シンポジウム」なども視野に入ってきています。

この「小田高ホームカミングデー」に関わっていくうちに実感したのは小田高同窓生の多士済々ぶりです。多彩な人材が揃っている。裏方の力仕事や泥仕事も引き受ける器量もある。各世代のこのパワーと資質を見れば、同窓会と「ホームカミングデー」の未来に不安はありません。ただ「小田高ホームカミングデー」は意外に大掛かりな企画です。多くの人の力が必要で、製作に参加される諸君にあつては、自分の経験したことのない新たな困難に直面することもあるでしょう。しかし我々は我々の考えを押し付けようとは思いません。そうした時には、我々の背中を思い出してほしいと思います。そして自分で考えてほしい、と願っています。多くの人が入れ替わり立ち替わりシームレスに広がっている同窓会。私たちはこれからの「小田高ホームカミングデー」を大きなツールとして、さまざまな同窓会活動を次世代に繋いで参ります。■



●連絡先

一般社団法人 千曲会
〒 386-0018 長野県上田市常田 3 丁目 8-37
TEL 0268-22-4465 / 070-4037-7873
URL : <http://chikumakai.org>

私と同窓会

信州大学繊維学部同窓会

一般社団法人千曲会 専務理事・石坂征洋

同窓会が支える学風と精神の継承



◀旧・千曲会館（キャンパスイン）

私共の同窓会は、大正四年に上田蚕糸専門学校同窓会として設立され、昭和四年に同窓会名を千曲会とし、昭和十五年には社団法人千曲会となりました。同窓会活動には恩師を囲み、思い出話を楽しむものから、母校や学生の支援をする未来志向のものまで、幅広い内容があります。法人化の時点で、母校の研究教育支援、学生支援、会員交流の三本柱が目的の未来志向の同窓会を目指していました。これが法人設立時から八十年、文言は多少変わりましたが現在まで引き継がれています。

平成二十八年同窓会設立百周年記念事業を無事終了しましたが、逆に卒業生の同窓意識の大きな変化を感じるようになりました。卒業すれば嫌でも同窓生、同窓会員という運命共同体と思っていた時代から、戦後の民主化意識から、同窓会に入会、非入会の契約共同体に徐々に変質してきました。上田蚕糸専門学校は、昭和四十二年信州大学繊維学部となり、昭和四十一年には教養課程を上田でなく松本で履修することになりました。ここで一年生だけでなく過ごせることを覚え、先輩との接触が薄れます。私も松本で教養課程を終えました。平成十六年の大学の独立行政法人化と共に先生方は大変忙しくなり学生との人間的な触れ合いの時間も激減しています。また電話、ファックス、郵便局世代からネット世代が増え、同窓会には幅広い年代層が存在するため、通信や広報が多様化せざるを得ません。このような変化が同窓意識の低下につながっていると考えています。自分と同窓会に入った覚えはないから会費は払いません。自分は千曲会の世話になっ

たことはないし、これからもないから会費は払わないと堂々と悪びれずに言う会員がいます。このような声を上げない会員はむしろもつと無関心派かもしれません。実はこれらの会員がサイレントマジョリティーなのです。

長い会社勤務を終え、同窓会の常勤役員になった平成二十五年当時は、農水省所管の社団法人であったため堅苦しい同窓会運営を強いられました。そのことも楽しくない同窓会の一因だったと思います。前任者から引き継いだ仕事も些細な事なのに複雑でした。そこで私は、会社経営に携わった経験を活かし業務の標準化をしました。無用な作業、重複している作業の合理化をしました。前任者は毎晩八時まで作業をしてましたが、五時前には帰れるようにしました。同窓会報の発行も編集委員の先生方の負担は大きくやり甲斐も見られませんでした。そこで会報の意義を明確にし、編集の仕方もパソコンを使って合理化しました。今では編集会議二回ほどで発行でき、内容も充実しました。このような諸々の合理化をしながら同窓会の歴史に触れると、同窓会が学校の諸々の場面で力を発揮し、支援して来た歴史がわかりました。学生時代には知らなかったけれども同窓会のお世話になっていたのです。これが卒業生にしっかりと伝えられていなく、これが無関心派を生む要因だと気づきました。

私は乞われて同窓会の役員になったものの、実はそれまで同窓会とはクラス会だと思っていた無関心派でした。学生時代に

しっかりと同窓会の事を教えておかないと理解する機会はないということを理事会に語り、四年前から新入生歓迎会を始めました。ここで同窓会千曲会の歴史や役割、活躍する先輩達の話をすると、「よくわかりました。活躍する先輩の姿を見てしっかりと勉強しなくてはと思いました」というようなアンケート回答が多数あり、予定外の勉学の動機づけにも繋がりました。平成二十五年末一般社団法人となり運営は和らぎ同窓会らしい楽しい運営が可能になりました。今年の総会は楽しかったねという声が聞こえるようになりました。

同窓会百周年記念事業を終え、これまでの同窓会運営の反省と今後を見据えて理事会三役は方針書を作成しました。これを年次計画、アクションプランに落とし込み、同窓会だから楽しくやろうと活動を開始したところです。



▲信州大学繊維学部・千曲会館（同窓会館）

人を作り人を繋ぐ

こやま
小山学園同窓会
君の原点がここにある

40,000人の卒業生をまとめて
人を繋ぐ真のハブとなる同窓会を目指す

●連絡先
〒164-8787 中野区東中野 4-2-3
学校法人小山学園 学園本部企画部内
同窓会事務局
TEL 03-3360-8153 / FAX : 03-3360-8830
E-mail : info@koyama-doso.com
URL : http://www.koyama-doso.com



左・長屋 勝利(ながや・かつとし) 氏(会長)
右・三上 孝明(みかみ・たかあき) 氏(幹事・事務局)

●学校法人小山学園は、一九六九年（昭和四十四年）に自動車整備士の養成を目的として創設された専門学校で、現在では四校に十ジャンル・十七学科を擁する総合学園として各々の分野のプロフェッショナルを育成・輩出している。二〇一九年には創立五十周年を迎える小山学園の、同窓会の活動と未来に向けての抱負について、会長の長屋氏と幹事・事務局の三上氏に伺った。

小山学園は今年創立五十周年を迎えます。この記念すべき年を前に、理事長の「四万人の卒業生全員に戻ってきてもらい、お礼を言いたい」との思いを受けて、これまで同窓会として考えられるさまざまな活動を模索してまいりました。その過程で「五十周年を機に、これまで本校を巣立った四万人もの卒業生と、送り出した学園に對し、同窓会として何ができるか、何をすべきか」という根本を強く意識するようになってきたと思います。

この課題を考えていく中で見えてきたことは、年一回の総会開催と、そのための事前の役員会が数回あるに過ぎない同窓会活動の現状です。それ以外は四つのキャンパスそれぞれが細々と何かをしているだけでした。それと同窓会として最も重要な「同窓生の情報」の管理もしっかりとしてはいなかったように思います。どういう活動をするにしても、情報の把握的確定管理は必須です。ですのでまずはそこから作業を開始しました。卒業生リストはもちろんです。データはほぼ卒業時のもの。正確さが年々低下していく実態は衝

撃的でした。これに對しては時間をかけて専門的な追跡調査を実施し、現在はほぼベストの状態に維持されています。

小山学園同窓会では、これまで「会員名簿」や「会報」を発行しておりませんでした。創立五十周年を迎えるにあたり、その重要な記念事業の一つとして、名簿の発行を実施することになりました。また学園と卒業生を結びつける手段の一つとして「会報」を定期的に発行することも決定しましたので、これを会員相互と学園との交流・情報交換の場になるよう育てていきたいと考えています。

この五十周年は、単に半世紀が経ったことのお祝いではなく、これからの小山学園の方向に深くかかわる大きな節目の時であると考えています。巷間言われておりまじうように、昨今の少子化の流れは本校にとつても無関係ではありません。たとえば自動車整備士を目指す学生は、もともと整備の仕事が家業とする家の子弟が多かったのですが、今日では社会の変化に伴って学生をとりまく環境が多様化した上に、学生数も減少傾向にあります。そのため、同窓会としてもさまざまな機会に学生募集を各方面に働きかけてきました。卒業生の子弟の勧誘はもちろん、キャンパスのある地域の祭に参加して、同窓会長として本校を「熱く」アピールをするなど、とにかく人と会い、話すということが続けてきました。これからもこうした地道な活動は続けて参りますが、今回、五十周年記念事業の中心に「卒業生の情報の整備」を据えたのは、その先に仕事上の協力体制構築の可能性を見出したからであり、母校と卒業生の発

展を考えた時、卒業生の情報を活用することで母校・卒業生双方の発展に繋がりたいと考えたからです。こうした作業の中から浮かび上がってくるものは間違いなくあるでしょう。そしてそこに同窓会としての新たな展開のヒントが見えてくると期待しています。

「親睦の拠点、そして会員への情報提供を行う場所として、小山学園の発展とともに」。この想いのもと、新生小山学園同窓会はこれからも「熱く」魅力のある場を創り続けて参ります。

▼「同窓生の集い」に参加した同窓生夫婦とその家族



▼ 地域の祭礼にも積極的に参加する



▼ 整備実習



▲ 東京テクニカルカレッジ（東中野）



志高き学びの為に

鳥取県立米子東高等学校 かんだ 勝田ヶ丘同窓会
 特定非営利活動法人 勝田ヶ丘志学館

自前の予備校として
 NPO 法人を立ち上げる



●連絡先

勝田ヶ丘同窓会事務局

〒683-0051 米子市勝田町1番地 米子東高等学校校内 同窓会館2階

TEL: 0859-22-9967 / FAX: 0859-22-9967

Email: dsk_kandagaoka@yahoo.co.jp

◆受付時間 午前10時～午後4時(月曜・水曜・金曜のみ)

山根 孝正(やまね・たかまさ)氏

特定非営利活動法人 勝田ヶ丘志学館館長(全日72期)

●鳥取県立米子東高等学校では昭和三十五年四月から浪人生を対象とする「専攻科」が設置されてきたが、民間の予備校が広く展開されてきたことを受けて、平成二十五年三月、五十三年にわたる歴史に幕をおろした。その専攻科にかわる新たな組織として「勝田ヶ丘志学館」を立ち上げた。全国でもあまり例を見ないこのNPO法人新設の経緯を「勝田ヶ丘志学館」館長で米子東高等学校の前校長・山根孝正氏に伺った。

米子東高等学校には、かつて「専攻科」がありました。これは高等学校卒業後に試験を経て入学する学校で、実質的には「予備校」です。ただ専攻科は、鳥取県が設置していることから「学歴」の二つとして認められ、同じ浪人として大学に入学し卒業した人の中であつても学歴がひとつプラスされていました。専攻科のある高等学校は、県西部地区では米子東高等学校だけでした。平成二十五年の専攻科廃止後、本校では現役の三年間でおのおのの希望する進路に向けた実力をつけるようつとめ、それなりの実績をあげてきましたが、一方でより高い目標を掲げたり、また部活など勉強と並行して行われる活動に熱心になるあまり、希望と異なる結果に直面する生徒が相変わらず多数いるという現実があります。そして専攻科があつた時代と廃止後の大卒受験における特徴を比較しますと、浪人数にはほとんど変化がないのに、県外予備校で学ぶ浪人生と自宅浪人生が増加しているという、家庭の経済状況に起因すると思われる「浪人生の二極分化」がすすんでいるんですね。

こうした状況と、地域の発展の基礎となる地元の浪人生の、更なる学びの志を保ち続けることをサポートしたい、という考えからNPO法人設立の考えが生まれたわけですが、同時に保護者の多大な出費と、親元を離れ県外で孤独に勉強に向き合う浪人生という立場からくる精神的なプレッシャー、などをなんとか打開したいという思いもそこには含まれています。

このように、専攻科廃止後、高額な授業料に加えて、県外での生活費などかなりの負担を強いられること、同時に経済的理由で自宅浪人を余儀なくされる浪人生が増加している、などの現状を憂慮した同窓会、PTA役員および前校長が中心となって鳥取県に申請し、平成三十年十二月に特定非営利活動法人(NPO法人) 勝田ヶ丘志学館の登記が完了しました。このNPO法人新設にあつては鳥取県立倉吉東高等学校の「倉吉鴨水館」(平成二十五年設置)の事例を参考と致しました。

「勝田ヶ丘志学館」の概要はおおよそ次の通りです。応募資格は鳥取県西部地区高等学校卒業生(対象は十二校で公立・私立は問わない)。事前の入学説明の後、三月二十日頃に入学希望受付を開始。選抜試験は英数国三教科で、米子市のコンベンションセンターで行います。開学は四月。定員は五十名。教室は米子東高等学校内の同窓会館(志学館)。授業料は年間五十万円入学金三万円、これに別途四ないし五万円程度の模擬試験代金がかかります。授業は基本的に毎日実施します。時間は朝七時半から夜七時まで。休みは月に一度程度、盆

休みと正月休みはそれぞれ六日間としています。

この「勝田ヶ丘志学館」はまだ緒に就いたばかりですが、いずれは専修学校にしたいと考えています。また社会の要請があれば、当然のことながら法人の本来の趣旨に従って、受講生の増員も有り得ます。その場合、県への助成金の依頼や、広く一般からの寄付を呼びかける必要も出てくるでしょう。

米子という地域の中で、地域の応援を受けて共に学び過ごした日々は貴重ですし、その経験を持って社会に出る生徒たちには、いつまでも郷土・米子の愛を感じつつ生きてほしいと願っています。そのためにも、「勝田ヶ丘志学館」を、これから社会を創っていく未来ある若人たちの堅固な礎とすべく努めて参ります。

▼新設成った鳥取県立米子東高等学校の校舎





飛翔せよ翠嵐

すいらん

神奈川県立横浜翠嵐高等学校同窓会

翠嵐会



●連絡先 翠嵐会（横浜翠嵐高等学校同窓会）

〒221-0854 横浜市神奈川区三ツ沢南町 1-1

神奈川県立横浜翠嵐高等学校内

FAX 045-330-4543

E-mail : office@suirankai.jp

URL : https://www.suirankai.jp

江成 正彦（えなり・まさひこ）氏 翠嵐会会長（高 29 回）

新しき時代を創り出す
個性と才能の未来のために

●神奈川県立翠嵐高等学校同窓会では、従来の一般的な同窓会費のあり方を見直し、新しい会費のあり方を会員に提示したところ、予想を上回る好結果が得られたという。多くの同窓会が直面している財政問題に対する処方としてその内容をご紹介するとともに、同校の同窓会の考え方、将来への展望・事業構想などを同窓会長の江成正彦氏に伺った。

横浜翠嵐高校の同窓会・翠嵐会は、他の学校同窓会とさほど変わらない組織だと思えます。大方の会員にとつては、毎年「同窓会報」を送つて来、母校のあれこれを伝えてくる遙かな窓、といったところでしょいか。なにしろ卒業後の二十代三十代には仕事や家庭が忙しい。自然、同窓会を意識することは希だったと思います。

それでもある程度の年齢になりますと、さまざまな社会的活動を意識するようになります。私もそれで母校同窓会のお手伝いを始めました。以来、曲折を経て現在は会長としておりますが、同窓会を運営する側になり、今まで省みることのなかった同窓会の実態に接して、活動のあり方を再考する必要を強く感じました。

まず第一に、翠嵐会では情報インフラが全く出来ていませんでした。同窓会と会員とのコミュニケーションは、せいぜい電話とFAX、それに郵便です。これでは二十一世紀の今日、あまりにもお粗末です。急遽HPを立ち上げ、電子メールの活用を常態として「活動の土台作り」を始めました。

二〇一一年、東日本大震災が発生、この未曾有の災害に対し、翠嵐会としても何ら

かの支援をすべきという声があがりました。しかし同窓会の本来の目的は会員相互の親睦と母校支援にありますから、予算を他の目的に使用することへの抵抗も当然出てきます。結果的に人道的な立場から寄付は行われましたが、このことは会則の見直しと、同窓会そのものあり方を考える大きな契機になったと思います。

二〇一四年、横浜翠嵐高校は創立百周年を迎え、記念事業に関して、学校・翠嵐会・PTA（全日制・定時制）の四者で実行委を結成し計画を立てました。その結果、記念式典、記念誌、記念歌、記念美術展などの他に、多目的ホールとして二百平米の「翠翔みらい館」を寄贈することになりました。もちろん費用は募金頼みです。当初は五千万円が目標でしたが、どうやってこのお金を集めるのが問題です。しかも初め「翠翔みらい館」の構想はありませんでした。

募金活動は二〇一一年から開始しました。具体的には振込用紙を二枚繋がりし、一つを同窓会費分、もう一つは百周年募金分で、こちらの方の金額は任意です。これを例年の会報とともに郵送し、HP上でも事業の内容を詳細に記しました。これまででも会報発送後にHPへのアクセスが激増するのをはかっていたから、両者を連動させて百周年事業の趣旨を明記し、これを四年間繰り返したわけです。

最終的に、これらの事業に対する寄付等の総額は七千五百万円にもなりました。結果五百万円弱の余剰金が出ました。これを基に「翠嵐支援基金」を立ち上げることにしました。この基金の目的は「学校と生

徒の支援」です。そしてこの基金の開設を機に同窓会費の改革に着手したのです。

現在の翠嵐会の会費は年二千五百円、終身会費は四万円以上となっています。ただし卒業後一年以内の場合は半額の二万円以上とし、これを会報等で公表しましたが反応が鈍い。それで卒業時に強くアピールしたところ、なんと八割の新卒生がこの特例条件で終身会費を納めてくれました。

会費改革は、百周年時の募金の手法を踏襲しています。それまで、同窓会費は「同窓会の維持・親睦活動費」と「学校支援」が一緒になっていましたが、「翠嵐支援基金」設立に伴いこれを分離、「基金」の方の用途を「学校支援」と明示し、これ自体の収支報告も公表します。この「目的の明確化」が功を奏し、結果として支援基金の分だけ入金額が増える結果となりました。

「翠嵐支援基金」の使い道には様々な構想があります。たとえば、そう遠くない将来に、意欲ある生徒の海外留学支援を実現したいというのもその一つです。そして、経済面のみならず卒業生の豊富な経験や人脈を活かしつつ、さまざまな可能性を視野に入れた、夢のある翠嵐会事業を実施して参りたいと考えております。



▲卒業生の彫刻家・田辺光彰製作のモニュメント。

1994年、創立80周年に翠嵐会が学校に寄贈したものの。



三校合同還暦同窓会

岡山県立倉敷南高等学校

同窓会

学校の枠を超えて交流する
「郷土の同窓会」



●連絡先 岡山県立倉敷南高等学校同窓会 事務局

〒710-0842 岡山県倉敷市吉岡 330

岡山県立倉敷南高等学校内

TEL : 086-423-0600 (代表)

FAX : 086-423-0601

左：大橋 典晶 (おおはし・のりあき) 氏 / 同窓会会長

右：原田 一行 (はらだ・かずゆき) 氏 / 同窓会顧問 (前会長)

●岡山県立倉敷南高等学校同窓会では、二〇一八年一月二日、市内の倉敷青陵高等学校と倉敷天城高等学校の三校合同還暦同窓会を開催した。本来、個別の学校をコアとした団体である同窓会が、どういった経緯で合同での同窓会開催に至ったのか、倉敷南高等学校の幹事役を担った前・現二人の同窓会会長に伺った。

三校合同同窓会と聞くと、ちょっと不思議な気がすると思いますが、実はこれには背景があります。岡山県では以前、入試に「総合選抜」を採用していました。総合選抜は、ご承知の通り学校間格差を解消するために導入されたシステムで、特定の学校の入試ではなく、あるエリアを決めてそのエリアに対して受験するものです。そのため合格者はそのエリア内の複数の学校に割り振られるので、必ずしも希望どおりの学校に入学できるわけではありません。ですから、入学当初は、母校に対する意識も希薄だったと思います。それでも本校には同窓会もありますし、さまざまな活動もしています。ただ、活動そのものは他の二校に比べればそれほど活発ではなかったように思います。

倉敷南高校は昭和四十九年(一九七四)に設置された新しい学校で、初めから青陵、天城との三校の総合選抜に参加しています。我々はその第一期生でして、それから四十四年後の二〇一八年にはちょうど還暦ということになります。

こういう背景を持った三校の卒業生の間には、学校を超えての交流というものが当然あります。今回の還暦同窓会もその延長上に実現したと言えるでしょう。そも

その始まりは、たまたま三校の卒業生である女性三名が集まった際に出た「三校で合同で集まれたらいいね」という言葉でした。それが前会長の原田氏に伝わり、原田氏が三校の同窓会に話をし合意を取り付けて実現したというのが流れです。実現のためには何度も話し合いを持ちましたがウチだけでいいという学校もあり、ようやく合意に至ったのは実施の一年前でした。

「三校合同還暦同窓会」は、青陵OBで京都大学教授の森和俊氏の記念講演会から始まりました。タンパク質についての二十分ほどの講演でしたが、さてどこまで理解できたかは不明です。その後、第一部として乾杯や献酬を交えた参加者相互の歓談があり、同窓会らしい和やかさに包まれます。席は学校ごとに設置しました。

それから第二部に移り、全員が参加するアトラクションが始まります。思い出の授業風景のパロディーで大いに笑い、更にかつての三校戦を彷彿とさせる三校対抗ゲームなどにボルテージは上がりつぱなし。それまで三校の間にあつた温度差のようなものも次第に消えて、当初の目論見にぴたり合致した「同窓会」になったと思います。当日の参加者数は二百二十九名、会費は男女とも一万円でした。

成功裏に終わった合同同窓会ですが、今後また三校合同で開催しようという声があり、古希のときも是非この形でという意見があるとも聞いております。個々の学校の同窓会はそれとして、地域というくくりで、しかも在学時から互いに競いあつてきた三校の全員を「同窓」と見る視点からの活動を、これからも継続していきたいと願っています。

倉敷青陵高等学校・校章▶



▼ 2018年1月2日 / 会場：倉敷アイビスクエア フロラルコート



▲三校合同還暦同窓会・実行委員



倉敷天城高等学校・校章▶



高知県立高知追手前高等学校校友会 事務局
<http://tokeidai.jpn.org/pc/obog/index.html>
 〒 780-0842 高知県高知市追手筋 2-2-10
 高知県立高知追手前高等学校内
 TEL : 088-873-6141
 FAX : 088-873-9748

わが学び舎

高知県立高知追手前高等学校校友会

質実剛健、文武両道の伝統を則として



井上 香二 (いのうえ・こうじ) 氏
 (校友会事務局/教諭)



イメージキャラクター▶
 「追手前 OO (おお) くん」と「ギンコちゃん」それぞれ「校名」と「スクールツリーの銀杏」にちなむ。OBの漫画家やなせたかし氏のデザインを元に井上教諭が制作したもの。正面玄関脇に設置。

沿革

明治七年(一八七四)一月三十日、西弘小路の高知県庁内に陶冶学舎を設置、その中に中学校に準ずる変則中学を設置。明治十一年(一八七八)十一月十九日、高知中学校として独立。この日を創立記念日に制定。尋常科と高等科を設置。明治十四年(一八八一)六月二十三日、第一回卒業式。卒業者数は四名。明治十九年(一八八六)九月、高知県尋常中学校と改称。十一月、校章(六稜星)と制帽着用を制定。明治二十年(一八八七)、女子部を設置。明治二十三年(一八九〇)七月、女子部の第一回卒業式。卒業者数は十名。明治二十六年(一八九三)四月一日、女子部が高知県尋常女学校として独立。明治三十二年(一八九九)四月、高知県中学校と改称。九月、高知県第一中学校と改称。大正十一年(一九二二)四月一日、高知城東中学校と改称。昭和六年(一九三一)十月、新校舎(現校舎)が完成。昭和二十三年(一九四八)四月、学制改革により高知県立高知新制高等学校(男子校)が発足。昭和二十四年八月、高知県立追手前高等学校と改称、男女共学となる。昭和二十五年(一九五〇)一月、高知県立高知追手前高等学校(現校名)と改称。昭和五十三年(一九七八)十一月十九日、創立百周年記念式典を挙行。平成三十年(二〇一八)十一月十九日、創立百四十周年記念式典を挙行。■

表紙写真・解説

校舎と正面に立つ時計台

本校正面入り口の上に立つ「時計台」は、昭和六年竣工の高知城東中学校(現校舎)の一部として建設されたもの。それ以前は木造の校舎だったが、既に時計台があったことは写真等でも確認できる。この「旧木造時計台」がいつどういいう経緯で建設されたかは分かっていない。新校舎建設の際には取り壊し案も出たが、学校のシンボルとして残したいという卒業生その他が高知県に陳情し、最終的に京都大学教授・武田五一の設計監修のもとで「新時計台」の建築が決まった。■

百四十年の歴史の階段

二〇一八年に創立百四十周年を迎えた本校の記念事業の一環として中央階段に設けられた「歴史空間」。現存日本最古の校旗をはじめ、明治期に出題された試験問題など約八十点が展示されている。これら資料は周年事業後も引き続き展示され、本校の歴史とその精神に触れる場所として、校舎そのものと共に時間のうねりと知的精神が響きあう空間を構成している。



明治期の試験用紙

明治二十二年(一八八九)の卒業試験の数学の設問。上が「三角問題」現在の三角関数の問題。下が「代数問題」。いずれも和紙に筆書きしてある。歴史と数学の試験問題は英語で出題されていることから、英語での授業が行われていたと考えられるという。校史資料室には、往時の英語で印刷された各科の教科書が、各種辞書等とともに保存されている。



明治期の最古の校旗(六稜星)

明治二十年十一月十九日制定の旧校旗で、高知県尋常中学校、高知県中学校・高知県第一中学校、高知城東中学校、高知新制高等学校の時代に使われた。明治十九年、高知県尋常中学校となった本校では現在の校章の原型となる校章「六稜星」を制定。翌年、この校旗が作られた。デザインは当時の美術教師で、「土佐の洋画界の父」とも称される楠永直枝。旗の生地は白羽二重、中央には金糸で校章があしらわれている。この校章「六稜星」には、生徒たちが高い理想を持って広く世界に羽ばたくことを、そして周囲の金モールには、天下一の理想を表す、との思いが込められている。この旧校旗は、日本で最初に作られた校旗とされ、現存する最も古い校旗といわれている。

ごあいさつ

福田 裕一

制服とは何か？

思い出の制服、憧れの制服・・・



株式会社サラト・代表取締役
福田 裕一（ふくだ・ゆういち）

●詳しくは、弊社ホームページから
URL : <https://www.salat.co.jp/>

弊社がおもちゃメーカー大手・株式会社カトラトミーとタイアップして商品化をすすめている「制服オリジナルリカちゃん」プロジェクト（以下、SOL）をスタートさせたのが、平成十八年（二〇〇六）。現在までに、全国十五県三十校のSOLを製作してまいりました。

初めて製作した鹿児島県立甲南高等学校では、卒業生に対して予約受付の案内状を郵送したところわずか一カ月で予定数に達し、その反響の大きさに大変驚いたのと同時に、卒業生の母校への思い、制服への思いの強さを知ることができました。その後、製作を重ねていく中で、当時の思い出話を交えながら制服に対する愛情を語ってくださる同窓会役員や学校関係のみなさんとお会いし、SOLが母校や同窓会への帰属意識を高めるツールに成り得ることを実感しました。

- ・あこがれの制服を着たくて受験勉強に打ち込んだ思い出
- ・祖母、母、娘、親子二世代、三世代で共通の制服を着た思い出
- ・制服が変わるので、思い出の制服をリカちゃんにさせて残したいとの思い
- ・若い世代の卒業生にもっと同窓会に関心を持つてもらいたいと願う思い

それまで制服のことを深く考えたことの無かった私にとっては全てが新鮮であり、それらの思い出をカタチにできるこのSOLをもっと多くの学校で実現したいと強く思いました。

いつの時代も社会のファッションリーダーは、女子中高生であり、制服の着こな

しやスタイルは、その時代を映し出す鏡のようでもあります。また、有名デザイナーが制服をデザインすることで学校のブランド化や人気・知名度の向上を図る学校などもあり、制服は単なるユニフォームではなく、シンボルであり、ステイタスであり、憧れの存在であります。

最近では、制服に対する考え方も多様化しており、LGBTに対応するため、女子生徒の制服をスカート・パンツの両方から選択できるように制服を一新している学校も徐々に増えてきました。また、以前から制服そのものを廃止している学校もあり、学校の方針や多様性を認め合う社会意識の変化など、制服を取り巻く環境は時代と

●制服リカちゃんに
新しい仲間が増えました
ご好評をいただいています「オリジナル制服リカちゃん」に新しい仲間が増えました。



©TOMY

左より：兵庫県 賢明女子学院中学・高等学校
兵庫県立長田高等学校
栃木県立足利女子高等学校

同窓会のチカラ 2019年号 / Vol. 11

(2019年4月発行)

編集・発行 株式会社サラト
本社・〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172
TEL 0120-138-000 ● FAX 079-224-7746
東京支社・〒110-0016 東京都台東区台東4-18-7
シモジビル 5F

TEL 0120-03-6381 ● FAX 03-3832-6389

E-mail eigy@salat.co.jp

URL : <https://www.salat.co.jp>

SALAT
Salat Corporation

サラトは昨年（平成三十年）、全国百九十五校の同窓会名簿を納品させていただきました。発行にご協力をいただきました同窓会・学校・会員の皆様にご心より御礼を申し上げます。ありがとうございます。

ともに変わりつつあります。リカちゃんが生きて五十年。今や全世代から愛されるリカちゃんのみなさんの母校の制服を着て登場します。ご自宅やさまざまなシーンで、リカちゃんがみなさんのそばに寄り添いなつかしい思い出を蘇らせてくれます。ご興味のある方はぜひお気軽に弊社までお問い合わせください。

わたしたちサラトは同窓会活性化のために、時代とニーズに応じた活動をこれからもサポートしてまいります。